

1.研修プログラムの名称

消化器外科・小児外科研修プログラム

2.研修概要（理念・特徴）

当科は食道から肛門まですべての消化器疾患（肝・胆・脾を含む）の診断から治療（手術など）までを行っており、さらに小児外科領域も含め多くの症例に携わっています。消化器外科・小児外科の修練を行う若い先生方に、すべての臓器において高いレベルの診断能力と各種検査（内視鏡、超音波など）・処置（腹腔穿刺など）・手術手技を身につけてもらうことが可能と自負しています。

3.到達目標

大学病院ゆえの先進医療や高難度の手術手技なども研修可能であるが、より普遍的な疾患群に対する基本的かつ高いレベルの内容が研修可能である。普遍的かつ広範囲な外科的臨床能力の習得を第一目標としている。普遍的疾患の診断から治療までを経験し、急性腹症など致死的な疾患への適切な対応がその主たる内容となる。上部消化管グループ、下部消化管グループ、肝胆脾グループ、小児外科グループのいずれかに所属し、手術予定症例を中心に診療計画の立案、診療録の作成、処方箋・指示書・診断書の作成、手術手技、術前・術後管理等について研修する。また、所属グループ以外の疾患や手術を必要に応じて研修することで限られた時間の中で幅広い疾患・手技の経験を積むことを可能とする。

病態；ショック、体重減少、黄疸、発熱、物忘れ、呼吸困難、吐下血、嘔吐、腹痛、便通障害、排尿障害、せん妄

疾患：胃癌、消化管潰瘍、大腸癌、胆石

が主たる経験可能な内容である。

4.指導体制・方略

指導医（1～2名）、医員（1～2名）、臨床研修医（1名）からなる主治医グループ（上部消化管グループ、下部消化管グループ、肝胆脾グループ、小児外科グループのいずれか）に所属し、術前管理、手術、術後管理を中心に研修を行う

5.週間予定表

	月	火	水	木	金	土
8:30 ～ 10:00	オリエンテーション 手術（大腸）	臨床検査 内視鏡検査 or 点滴当番	教授回診 or 点滴当番	手術（大腸）or 臨床検査	臨床検査 or 外来業務	8:00 研修医 カンファ 教授回診
13:00 ～ 16:00	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	
16:00 ～ 17:00	病棟回診	症例検討会	病棟回診	病棟回診	病棟回診	
17:00 ～ 18:00						
18:00 ～ 19:00		院内研修会				

- 1) 上記は下部消化管グループに所属した場合の例である。上記予定表に従い研修を行うが必要に応じ指導医の指示に従う
- 2) 研修期間中に大腸癌手術以外に胃癌、胆石、ヘルニアなど、他グループの手術も経験する
- 3) 経験した手術症例について手術レポートを1例提出する
- 4) 休日研修は指導医の指示に従う

6.カンファレンス

7.研修活動

8.評価

1) 研修医自己評価

患者記録表、教育的行事の参加記録並びに経験記録表に記録する

PG-EPOC を用いて自己評価を行う

研修事後レポートを用いて自己評価を行う

2) 指導医による評価

PG-EPOC を用いて評価する

研修事後レポートより評価する

3) コメディカルによる評価

PG-EPOC 又は評価表を用いて評価する

他者評価表を用いて評価する

4) 研修医による評価

PG-EPOC を用いて指導医（上級医）、診療科・病棟、研修医療機関、プログラムを評価する

9.その他特記事項

消化器外科・小児外科に興味のある方は研修開始時に必ず声をかけて下さい。

色々な特典（ラボセンターでのシミュレーションオペ、学会発表のお手伝い等）を用意しています。

10.研修中に作成する病歴要約

（赤太字必ず作成する、太字可能なかぎり作成する、他 対象疾患を診察したら作成する）

経験すべき症候

ショック、体重減少・るい痩、黄疸、発熱、もの忘れ、呼吸困難、**吐血・喀血、下血・血便、**

嘔気・嘔吐、腹痛、便通異常(下痢・便秘)、排尿障害(尿失禁・排尿困難)、興奮・せん妄、

終末期の症候

経験すべき疾病・病態

胃癌、消化器性潰瘍、胆石症、大腸癌